



TOKYO GARIOA FULBRIGHT ALUMNI ASSOCIATION

ガリオア・フルブライト東京同窓会

NEWSLETTER



笑顔で結ぶ日米教育交流

日米フルブライト交流計画50周年記念レセプションは、
天皇・皇后両陛下をお迎えし、また式典・シンポジウムは
皇太子・同妃殿下ご臨席のもと盛大にひらく



ガリオア・フルブライト東京同窓会

〒102-0084 東京都千代田区二番町11-10

TEL: 03-3221-1841 FAX: 03-3238-0758

E-mail: fulb@fulbright.or.jp

http://www.fulbright.or.jp



Japan-U.S. Fulbright Program 50th Anniversary
Reception



Japan-U.S. Fulbright Program 50th Anniversary Ceremony & Symposium



Ceremony & Symposium



賀来委員長ご先導



遠山文科大臣、ハリソン國務次官補、植竹外務副大臣



植竹外務副大臣、クリステンソン臨時代理大使、フルブライト夫人



賀来実行委員長、内古閑日米教育交流振興財団理事長、金子東京同窓会会長



桜井里穂、シェパード事務局長、有田明子、ヤン前事務局長



メアリー・ハムストンご夫妻（グランティアー）

日米フルブライト交流計画50周年記念行事

今年、1952年に日米フルブライト交流計画が開始されてから50周年にあたる記念すべき年です。このため2年ほど前から、ハワードH. ベーカー駐日米国大使と竹内行夫外務省事務次官を共同会長とする日米フルブライト交流計画50周年記念事業発起人会のもとに、記念事業実行委員会（賀来景英委員長）が設けられ、実行委員の方々、日米教育委員会事務局（サムエルM. シェパード事務局長）および同窓会が一体となって準備を進めてまいりました。

記念事業は先ず、5月8日（水）「日米フルブライト50周年」記念切手の発売で始まりしました。

次いで翌5月9日（木）、午後7時からサントリーホールにおいて、フルブライト音楽祭「もう一つの世界との出会い」が催されました。出演者は同窓生及びその家族の方々の方々です。

ヴァイオリン：久保陽子

チェロ：堤 剛

ピアノ：田崎悦子

ピアノ：広中 孝

ベーカー駐日米国大使ご夫妻はじめ会場いっぱいの聴衆は、一ガーシュイン：三つの前奏曲にはじまるすばらしい演奏を心ゆくまで楽しみ、惜しみなく盛大な拍手を送りました。

5月25日（土）には午後5時30分から、天皇・皇后両陛下をお迎えして、東京国際フォーラム レセプション・ホールにおいて、50周年記念レセプションが行われました。

日比谷潤子東京同窓会アルムナイ・ミーティングス副会長の司会により、白川哲久日米教育委員会委員長の挨拶に続き、パトリシア・ドустレーシー・ハリソン米国国務省次官補とハリエット・フルブライト夫人が来賓として祝辞を述べられ、竹内行夫外務省事務次官の乾杯のあと歓談に入りました。

両陛下は、和やかに招待者や同窓生のご挨拶をお受けになり、周りには幾重にも人の輪が広がり、両陛下ご退席の後も参加者の歓談は遅くまで続きました。

そして5月26日（日）午前9時30分から、皇太子・同妃殿下ご臨席のもと、東京国際フォーラム Bホールにおいて50周年記念式典・シンポジウムが行われました。

前夜と同じく、日比谷潤子氏の司会により、金子尚志東京同窓会会長の挨拶に続き、皇太子殿下よりお言葉（4頁に掲載）を賜りました。

その後、来賓としてご参列の遠山敦子文部科学大臣とパトリシア・ドустレーシー・ハリソン国務省次官補が祝辞を述べられ、続いてカロラインA. 又野 ヤン フルブライト対外奨学金理事会理事長（日米教育委員会前事務局長）がスピーチをされました。

次いで第3回フルブライト賞授賞式に入り、ハリエット・フルブライト夫人から4人の受賞者に記念品が贈られました。続いて全国の同窓生から寄せられました個人募金の目録が、金子尚志会長から内古閑俊二日米教育交流振興財団理事長に贈呈されました。

この後、皇太子・同妃殿下はステージから客席内に移られ、山崎正和東亜大学学長（劇作家）による基調講演を、大勢の招待者、同窓生、一般の参加者とともに聴講されました。

午後は平野健一郎早稲田大学政治経済学部教授をモデレーター、下記の方々をパネリストとして、パネルディスカッション「21世紀の国際的的交流と日本」が行われました。

キャロル・グラック

コロンビア大学教授

皇太子殿下のおことば

平成14年5月26日(日) (東京国際フォーラム)
日米フルブライト交流計画50周年記念式典にて

日米フルブライト交流計画50周年を記念する式典に皆さんと共に出席できることをうれしく思います。

フルブライト交流計画は、人と人との交流を通し、相互理解を深めることで平和な世界を築き上げたいという、故J. ウィリアムス・フルブライト米国上院議員の願いから始まりました。第二次世界大戦直後に計画が始まって以来、世界の国々が事業に参加し、26万人を超える同窓生が各国で活躍されていると聞いています。日米両国の間の事業は今年50周年を迎えましたが、この間、6千数百人の日本人を米国に派遣し、約2千人の米国人を我が国に迎えることを通じて、両国間の友好と相互理解の促進に大きく貢献してきました。

若いころの海外への留学は、非常に貴重な経験となります。私にとっても、留学の経験が、その後の人生に極めて有益であったと感じます。帰国した多くの同窓生の方々が、フルブライト交流計画で得た貴重な経験を糧に、我が国社会の発展の過程でそれぞれ活躍されてきたことを誠に喜ばしく思うとともに、その後のフルブライト交流計画を記念募金活動などを通じて支援されてきたことに、心から敬意を表したいと思います。

過去半世紀の間に交通や通信の手段は格段の進歩を遂げましたが、各国の間の人物交流を推し進めていくことは、21世紀に入っても引き続き重要であると思います。フルブライト交流計画がこれからも発展を続けるとともに、日米の人々の間の相互理解が一層深まることを願い、私の挨拶といたします。

孔 魯明 (コン・ノミヨン)

元韓国駐日大使・外務大臣、東国大学教授

猪木武徳 大阪大学大学院経済学研究科教授

岡本行夫 岡本アソシエイツ代表

山本 正 (財)日本国際交流センター理事長

陶芸 藤原 雄

陶芸 結城美栄子

陶芸 バレリ・ジメニ

写真 有田明子

以上5月に行われました各記念行事に続き、秋の記念行事である9月20日～29日のアメリカ再発見旅行、10月28日(月)の記念チャリティ・ゴルフ大会等の模様は次号ニューズレターでご紹介する予定です。

これら基調講演、シンポジウムのほか、専門家による論文等をまとめた50周年記念出版物は本年末に上梓される予定です。

上記の記念レセプション、式典・シンポジウムと並行して、フルブライト美術展「もう一つの世界との出会い」が、5月20日(月)から26日(日)の間、東京国際フォーラム Aギャラリーで開かれ、フルブライターであるつぎの陶芸家、写真家による作品が展示されました。

日米フルブライト交流計画 50周年記念式典挨拶

ガリオア・フルブライト東京同窓会会長
金子尚志



異文化理解の礎築いたこの50年を祝す

本日は、皇太子殿下・同妃殿下をお迎えし、遠山敦子文部科学大臣、PatriciadeStacy Harrison米国・国務省次官補はじめ多くの関係者ご臨席の下に、日米フルブライト交流計画50周年記念式典を、かくも盛大に挙行できますことは、関係者一同慶びに耐えない次第であります。

思えば、フルブライト交流計画の前身は、1949年ガリオア資金による50人の留学生派遣に始まりました。その後1951年サンフランシスコ平和条約締結に伴い、米国フルブライト法による交流計画に移した訳であり、その年1952年が本日の50周年記念式典の原点に当たるわけであります。

それから実に半世紀・50年が経過致しました。この間、日本からのフルブライト留学生として、当初の20年間は年平均・約250名、70年代以降の30年間は年平均・約50名の留学生が日米に派遣されました。通算して前年の20年間で5,000名、それ以降の30年間で1,800名。合計して実に6,800名の日本人留学生が米国の大学・研究機関等に派遣され、勉学・研究に従事したことになります。戦後の荒廃する日本から、学界のみならず、広く官界、金融界、法曹界、産業界、芸術、ジャーナリズム等の広い層から留学生が公募・選考され、米国に渡り、学問を学び、社会を知り、そして友情を体験して帰って参りました。帰国後、これらの方々は日米相互理解の精神を日本に浸透させると共に、日本の戦後復興と日米関係改善強化に大きく貢献されたことは、御高承の通りでございます。一方、米国から日本への留学生は通算約2,000名ですが、1979年に日本政府も半額負担を開始し、現在両国バランスの取れた姿で運営されております。

若い頃に留学機会を頂いた同窓生の感謝の気持ちは、何時の日にか「両国の架け橋」の役目を果

たしたいとの行動に反映され、20年前から5年ごとに同窓生対象の募金活動として展開され、その浄財は企業寄付金等と併せて、米日留学生の追加招聘に当てられて参りました。今年度は、「50周年記念募金」と言うことで、結果として1,651名の同窓生から総計4,000万円を超える浄財を募金賜りました。後程寄贈式がありますが、募金頂いた多くの同窓生他の関係各位に心から感謝申し上げる次第であります。同窓会会員の多くが既に御高齢にも拘わらず、前回を上回る募金を賜ったことは、昔の留学経験の感動を忘れ得ぬ同窓生各位の強い恩返しへの思いの集積であり、深く感動させられる所以でございます。

日米フルブライト交流計画50周年を迎えられたのは、本日フルブライト賞を受賞される方々をはじめ、大勢の先輩各位の積年のご協力の賜であり、ここに深く敬意を表する次第です。またフルブライト交流計画の円滑な実行に尽力されたフルブライト委員会事務局、フルブライト同窓会、フルブライト記念財団の歴代役員各位、並びに50周年記念事業実行委員会の皆様方に、心から御礼を申し上げ、フルブライト精神の一層の発展を念願し、私の挨拶と致します。

募金目録贈呈時の挨拶：

フルブライト交流計画50周年記念募金活動に於いて、全国同窓会会員1,636名の方々から御拠金頂いた、39,662,208円と、米国在住の同窓生15名から寄せられた\$ 4,650、合計すると1,651名、邦貨換算で40,238,343万円の金額になりましたことをご報告申し上げます。これを米国からの留学生招聘の一助に使って頂くべく、御拠金いただいた同窓生各位を代表して、日米教育交流振興財団の内古閣理事長に寄贈申し上げます。

50周年記念募金芳名録（敬称略）

【120万円】八幡惠介【100万円】田嶋邦男、三浦健【50万円】高橋剛夫【25万円】能美和夫【20万円】津島雄二、山口正俊、川又良也、伊藤ノブ夫、一條和生、朝倉幹夫、上田俊夫【15万円】林弘子、南原晃、大河原良雄、渡辺彦憲【13万円】藤島昭【12万円】苔米地英人【11万円】侯野一郎、山本博、上野田鶴子、浜田邦夫【10万円】金子尚志、徳永勉、サムエルM.シェパード、鳥羽良明、若月三喜雄、後藤田輝雄、三木英司、橋本徹、内古閑俊二、富田若芳、岩野一郎、磯部朝彦、亀山博子、八木江里、宮川圭治、隅出昂伸、吉村徳重、長澤光一、竹村健一、渋谷実、有馬朗人、小穴進也、高田敬子、日比野日出雄、川平朝清、小玉敏子、木下宗七、香西理子、伊勢亀富士朗、外池滋生、村片みどり、石井悠、宮野誠保、杉山茂、吉井英一、本田正一、立川武蔵、開原成允、内海澂、上田功、岡本清、小原望、竹内利枝子、堀江昭、新堂庄二、角田愛次郎、土橋信男、村上英二、落合卓四郎、高向巖、大橋吉久、山川洋一郎【9万円】長濱毅【8万円】小西輝明、山田安定、正野敏夫、山本昂、山村昌【7万円】荒井蝶子、大内博【6万円】穂積英夫、宮崎誠也、森本武利、小柴徹修、島田幸三郎、若井一期、河野宗夫、桐濶利博、海老根宏【55千208円】平井正穂【5万円】濱田宏一、安江明夫、池田貞雄、上田明子、篠田時彦、佐藤ギン子、渡邊宏、高田良一、牧野信夫、中村和郎、神谷傳造、石光亨、諏訪邦夫、松本達郎、渡辺剛、新山英輔、飯島三吉、池上見子、守島基博、臼井善隆、渡辺昌昭、早川操、比嘉幹郎、美濃正一、遠藤治郎、片山厚、藤崎博也、森田矢次郎、丸山富久治、小高忠男、八木健三、今井日出夫、早川俊一郎、川守田莞菴、早見弘、上田慶一、村尾裕也、池田昂二、藤井澄二、榎本太、あきばじゅんいち、植田英彦、原喜美、岡崎恒子、原口三郎、鈴木エワード、尾原照雄、関口恭毅、河原畑正行、梅田巖、藤山淳、戸松秀典、山田康之、高澤廣茂、小倉いずみ、玉置文一、志知俊秀、金辻信弘、田島穆、吉川清隆、小西健二、仁科雄一郎、手塚一男、定森大治、加藤幸次【4万円】瓜生津隆真、徳丸実、松浦好治、松下康雄、上地實、大森照夫、津田葵、大久保貞義、野口祐一、宮田元、江頭啓輔、比嘉正範、渡邊眞治、大鍋壽一、松浦以津子、飯田忠三、里吉榮二郎、福井治弘、仁田道夫、沢木弘久、西彰五郎、松本滋、嶋正彦、中島和江、吉川素三、拔山映子、手塚千鶴子、國分康孝【35千円】今堀和友【33千円】飯野智也、中村博【3万円】井原泰男、山西貞、岩山太次郎、眞崎勝、今井六雄、由良一仁、藤本雅美、浅田喜代子、池田政利、浜田健生、佐々木公明、佐藤光夫、柴田忠男、伊集院功、高井次郎、小泉直一、石橋直樹、朝隈六郎、田部浩三、外間寛、岡本正敏、宮本美沙子、奥津文夫、石川滋、片岡啓介、森口兼二、西條隆雄、鮑戸弘、永田雅宜、松井真、日根文男、橋本祐子、三好正也、星克治、佐藤敏雄、金子主税、寺岡憲子、小島啓邦、乾恒夫、會田勝、安田佳子、嶋村篤子、熊本信夫、阿部晃夫、古橋宏造、平野裕、松岡享子、牧本次生、尾崎生行、鹿島英夫、前田幸雄、開原久代、石田晴久、東監一、楠原惺子、岡田清、立岩敏朗、松木康夫、松村實、山田昭廣、小川晶、口羽益生、久世篤、石川清治、川村保、見弘弘武、瀬在幸安、楠川眞一、太田隆次、武内敦郎、岩佐義朗、宮本順伯、安里文雄、佐々木肇、野崎謙介、柳谷謙介、河合三良、池浦貞彦、大平博一、末永国明、高間敬一、穂積タツエ、安彦忠彦、柳ヶ瀬勉、市嶋勲、泉三和子、佐藤満秋、熊野善介、刺賀信雄、須山静夫、立脇和夫、橋本秀一、井上信一、井上貴照、植村攻、重井達朗、岩男寿美子、齋藤智、須貝益雄、小林充尚、田中信正、阿部周造、山村尚道、安本正、笹木和雄、尾島昭次、曾我美勝、江淵一公、西田昭彦、本多獅子太郎、清水新二、池田晴彦、坂田禮彦、山田久美子、伊東克一、幸治生、平野実、黄家実、八木博司、青木寅男、千田純一、細田和徳、梅沢時子、鈴木光、小林晴夫、明石康、吉田光宏、黒川兼行、木村榮一、嶋川四郎、小川英次、佐々木益男、片木晴彦、茅陽一、緒方四十郎、青柳清孝、橋本富郎、本間長世、行天豊雄、大津誠、滝口正史【25千円】岡本義幸、澤田昭夫、清澤悟、小平清【22千円】斉藤一郎【21千円】高階悟【2万円】濱四津尚文、多米豊、美添泰人、高嶋稔、真鍋舜治、小島秀樹、岡田明久、宮正義、羽鳥一英、菱田浩子、近藤好博、島田良一、佐久間徹、原田契一、浜口登、小牧元、池田憲昭、文野千年男、米沢平治、森田幸夫、渡辺寿恵子、岸本宏子、杉山武彦、林紘太郎、田總武光、齋藤襄治、加瀬正二郎、青木邦夫、柳田友道、山本澄子、田部滋、横田信武、渡邊一、板谷恵子、西岡一水、大塚和徳、弓隆明、内山弥生、浜田文雅、斉藤善一、大山綱夫、田崎淑子、白井洋子、小林史子、高山正也、小田切宏之、近藤安月子、都河明子、高瀬理美、小木曾茂、清川雪彦、曾野和明、加野忠、大橋康隆、原田明、箕浦康子、柳澤昭雄、村山淑子、水谷純也、立川雅司、小指軍夫、児玉安司、大島秀夫、本間龍雄、深町千種、詫間晋平、滝川秀子、山下貴司、鈴木富志郎、北川勲、有江幹男、岡廣敏郎、本合隆、福岡醇一、武藤孝男、笠文宏、稲垣春男、増田吉男、亀谷麒與隆、小堀憲助、古田和子、佐藤登志郎、中兼和津次、吉見国昭、古城佳子、東璋、岡田宏明、中村雄治、杉崎眞、江端貴子、山下竹二、渡辺真理、福田幸子、岡田淳子、菅原彬、三上紀史、水澤英洋、小菊喜一郎、倉林民男、石川英彦、渡辺信二、牛島俊明、小林明、我妻ゆき子、田村達也、大木道則、坂本昭雄、遠藤政章、稲見芳勝、田島重雄、波多野裕造、武田満す、真田淑子、小島秀夫、片方善治、秦藤樹、内多潔、犬養康彦、伊丹レイ子、森田貞雄、村松敦、水谷信子、穂坂衛、中村素子、中平立、田村邦彦、黒田誼、下條友友、嘉治元郎、小林邦彦、伊木和子、山本正弘、柳柳洋一郎、安河内景山、村尾誠、星卓宏、藤井幸雄、中村健、田辺龍郎、嶋田正生、沢口悦郎、斉藤礼子、小浪充、山本博、伊藤学、板橋好枝、渡邊博、森田美代子、堀博、菊地顕次、久笠百合、北村宗彬、清水滋、稲垣元宣、柴田洋三、太田洋三、阿部哲夫、松本伊夫、浜田竜之介、竹中俊子、森田正實、木田宏、奥田邦雄、小野博志、小泉喜平、田村善之、大竹孝司、加藤幸男、椿清文、宇佐美道雄、菅野峰明、元木伸、川島常稔、吉田章宏、河登一郎、濱田敏郎、伊藤清、野本浩智、斉藤秀雄、近藤健啓、嘉治佐代、芦原義信、吉井美知子、東海明宏、北村汎、犬丸直、伊藤元信、竹蓋幸生、藤岡眞佐夫、村杉隆、栗山茂光、木谷忠、松本礼二、赤岩英夫、神田秀樹、永峰卓夫、川又邦雄、水野順一、根本治、北川正樹、安武正隆、藤井齋子、飯島浩一、笹沼澄子、木村義人、小野澤康輔、大井美美子、大井孝、田村茉莉、入交昭一郎、綿貫芳隆、小林恒明、三澤慶子、兼松重任、平井直房、多田愈、坂本宗仙、近藤いね子、伊藤徳治、岩動孝一郎、平野健一郎、谷口茂昭、竹内澄夫、小池美佐子、奥座章健、海鋒正毅、高橋一修、下川洋市、嶋田征子、佐藤功太郎、賀来景英、小柳知彦、岩島久夫、永田傳、高桑昭、下康郎、幸島祥夫、一瀬智司、大村彰道、池田義一、池田久美子、広江尚司、近森明彦、相内俊一、太田知行、横山陽代、毛利昌史、古屋安雄、砂川真、吉武香代子、宇佐美滋、伊崎和夫、ランデスハル、三輪誠、池上雄作、松坂兵一郎、町田正彦、金子豊、菅原眞一、藤原眞徳、増田義三、関晴子、三方淳男、前田謙二、堀憲明、武居敦、朽津耕三、三船意堂武、名原一、若田靖夫、中島紘一、河野通、中村喬、奥村有敬、阿部美哉、村松安子、安達三郎、松山美保子、前田典子、長坂健二郎、寺田秀夫、小池勇、大森郁朗、岡部達味、平井英夫、青木茂之、豊倉康夫、清水昭敏、勝見允行、向井利夫、荒川民雄、對馬ユキ子、出村彰、波多野里望、中島弘、江坂由紀子、山岡克己、永澤満、各務房子、酒井敏明、北村和人、中西浩一郎、酒井汀、吉田昭、矢飼通之、小林昭一、木村汎、丹下省吾、角岡秀彦、白岩謙一、岡本浩二、尾上薫、小林哲也、安里祥徳、馬場昌子、常木清、土岡弘道、秋枝蕭子、河合忠一、奥村宣嘉、瀬波波榮喜、丸田博美、片山剛、東江隆治、宮城真宏、隈本恭、稲永和豊、小山泰、広永周三郎、穂積美枝、市村真一、志田忠正、菊池繁夫、森口親司、高仲頭、山田豊太郎、村上幸人、服部絢一、駒野徹、猪飼公郎、木村尚、板倉武子、鈴木敏明、館石捷二、佐藤三郎、明石一、竹内郁夫、宮崎正夫、川野正七、山口司、新垣義一、松原康彦、服部尚史、櫻尾次郎、宇宿源太郎、田中春美、福田昇八、坂本勉、荘口博雄、森野捷輔、大濱博一、永原誠、安藤仁介、両角光男、岡一勇三、目片守、尾崎嗣、大城判、前田浩、木下徹、久田友明、島袋一郎、室伏靖子、藤本文弘、太田宏、松山信直、許俣盛徳、増田義人、狩俣真彦、中村恒善、山本恵里子、後藤昇弘、林憲一郎、皆川貞一、有松章夫、服部敏彦、小島平夫、三宅弘三、名嘉座元助、今里滋、落合太郎、高哲男、藤田榮一、中川敦子、岡田桂典、福岡欣一、櫻井春輔、福島清彦、富永敏朗、青木正直、谷聖美、式部久、椎貝博美、大井浩二、望月和子、三浦昭、衣笠茂、高橋久、比嘉美代子、蔵本潔、武富保、佐々木薫、上原與盛、祐宗省三、田頭潔、春島美也富、小池茂彦、宮崎征、和爾超城、西岡淑雄、金山崇、石崎貞明、山藤泰、藤井信行、松田陽子、小山修三、山崎弘行、松本登美、坪井清彦、米田宏、杉山洋子、神幹、金築修、高井新一郎、杉村棟、野津良夫、高桑栄松、岩瀬悉有、池田正澄、中嶋康輔、下河内澄、宇井純、山川元之、三輪信哉、高木敏公、岩井紀子、嶋岡康東、宮澤節生、片山貞雄、奥村幸信、太田朋子、大木俊夫、小林淳、湯佐祥子、奥村保明、神保一郎、一郷正道、白石裕、松原謙一、八幡三喜男、岩橋文吉、田口芳弘、金城昭夫、橋口保夫、岸正明、原田幸雄、堀菊子、鹿山光、吉田静雄、飯田實、富永周作、佐藤正次、岩倉國浩、山中千代衛、河上誓作、綿森淑子、金城政英、向山義彦、太田千義、山下卓哉、名取靖郎、伊禮恒孝、原田昭子、大津章、牧野子一郎、野津清満子、木村和夫、福田智【15万円】黒田定明、渡辺茂男、秋田宗平、藤本哲夫、神山五郎、島袋伸三、奥作雅美、高橋道、西田浩太郎、新井明、下地正雄【14千円】賀島一雄【13千円】小川直子【12千円】渡邊毅【11千円】山本茂、川本幸雄【1万円】島袋鉄男、中澤次郎、佐々木徹郎、高萩

保治、三好啓治、阿武寿人、比嘉辰雄、市川整、虫明康人、山本和之、河原久勉、仲尾次秀子、大内照之、我妻則明、石川知雄、河合忠彦、石津和彦、桜井たか子、田中力、小野浩、伊良波政彦、井ノ口仁一、小田島敏朗、芳澤毅、多田保行、野村益寛、政岡玄章、屋良恭子、藤井ハレイ、犬養智子、白石文子、井出義光、久保田晴寿、上村直樹、市村孝雄、山崎純男、中山修一、加藤勝三、藤原新一郎、森田章、南風原孝、溝口節子、芝田征二、藤川勝、長島富太郎、渡部孝、村山磐、加瀬嗣司、金城盛栄、本内八千代、小倉協三、藤原祥三、仲本貞夫、四笠慶治、八藤雄一、三木吉治、西武照雄、大根田昭、川村哲夫、鯨島廣年、近藤康男、松崎啓、吉田茂、森岡芳洋、寿岳潤、嶋崎吉彦、横山良、宮本一郎、照屋健、池園悦太郎、太田英章、東原芳彦、北川博敏、大内伊助、横井義則、原田伸正、佐藤洋一、天城淳子、池内武、溝上泰、延與三知夫、日野圭子、天野耕二、林正二、富松利明、青木高志、武内憲治、鈴木明子、島田道子、伊藤憲彦、阿曾佳郎、竹田有、木村雅男、岡本道雄、吉井祐藏、和田正徳、八木康一、安藤忠彦、相沢幹、藤原浩、篠崎達夫、金澤正剛、星野美賀子、伊藤信隆、松島千代野、西山俊子、恒藤敏彦、飯田一根、高岡正、小出啓子、正井泰夫、宮原哲、三浦幹男、岡田美沙子、館林重夫、井上通子、酒井敦子、木山和男、三木健二、定井喜明、村村和子、長谷川明子、石垣博美、功乃佐智子、浜田雅子、花城梨枝子、野崎陽子、湯浅信之、小村幸友、土光文夫、有賀貞、若野省己、宮西通博、吉田弘重、渡部陽、師岡愛子、栗原豪彦、宮本昭正、松室武仁夫、田鍋薫、石井修平、沖原豊、糸藤洋、安念孝、武井実、佐野開三、湊晶子、堀幸夫、林克己、日下喬史、総山孝雄、牧野富士男、中川四郎、田中達夫、小村薫、服部了司、野末源一、石川満夫、高見彰、片山明石、倉田恵介、平井友義、安孫子保、重光武徳、原里子、丸尾文治、宮良用英、外山紀久子、小菅敏夫、佐藤良明、宮城文三、櫻井利夫、西田實、糸光家、鈴木恭、高弘子、衣笠正晃、関根則之、高橋勲、小林治、垣花郁夫、石川眞澄、徳永寿美子、大澤映二、山城俊治、前田幸春、高良隣榮、芹沢良夫、梶野卓二、河野豊弘、林哲郎、郡司正、飯鉢和子、野見山一生、林洋子、阿部齊、深田實、山田優、太田朗、江川泰一郎、石塚俊子、田中正吾、一乘勲、松永和人、尾添郁子、下河辺美知子、小谷耕二、伊良波長東、妻鹿利男、田中信昭、田中四郎、桑田次男、石川吉右衛門、鈴木伸、早生隆彦、東江平之、柿沼栄一、島田太郎、橋村三郎、亀井旭、砂川恵伸、柴田健治、伊江朝香、油原ゆう子、内藤昭男、宮城豊、南雄三、平良寛吉、新崎康善、羽柴正市、与那覇政信、須之部量三、石川衛三、大柴達、柳川浩一郎、早瀬博範、岡本良平、村松正實、森茂樹、神原武、森岡亨、神本忠光、平永輝、那須野精一、丹宗晓信、鈴木浩一、松本薫、大原孝、一松信、長島敦、小祿清、森田昌子、本間日臣、戸川清、真菜田司、渡辺フミ、仲吉良包、徳山盛保、小宅弘道、井上光子、氏家昭一、佐伯彰一、三嶋完一、伊藤太郎、堀川敏雄、妹尾泰利、野村忠、引地岳雄、吉田孝、三浦尚之、野上耀三、西田誠哉、作田沢秋、青木宏治、高橋春治、小野慶治、柳原尚明、澤村卓、戸澤健次、仲井真正信、佐伯三麻子、奥宮実枝子、藤井建人、橋本高明、木庭修一、渡谷啓一、河野照、栗原芳高、金子隆芳、加藤政、阿子戸香、瓜生原二郎、大桃敏行、田村京子、三好勇夫、安田寛、中山喜夫、赤井弘、佐渡重信、吉田正男、石川雄一、田中隆藏、玉城光治、鷲津浩子、石井高、鬼界彰夫、石塚俊二郎、菅野道廣、磯博康、番匠谷淳一、神里常雄、上江洲潔、中野睦治、天満美智子、須磨未千秋、若田部博哉、竝木崇康、沖信春男、玉島倫太、倉恒匡徳、大西寛、川滿敏、赤嶺健治、境弘子、小島義郎、三谷哲美、須佐憲三、上林健、中川治子、大森和子、大前正臣、柴田雄蔵、榎本徳世、上野一郎、国武豊喜、保谷六郎、奥座豊治、大塚和弘、高橋義彌、中村正久、前田多良夫、小田海平、金杉益男、春日裕幸、淡野勝巳、石井文夫、山元卯一郎、不破治子、坂本宏、倉谷好郎、網倉久永、松井正子、足立昭夫、久保文明、橋本満、細谷正宏、宮内弘、大西直樹、不破哲、若井邦夫、木南敦、高橋園子、岡本浩一、伊藤誠、大塚泰一郎、吉田滋、篠田靖子、鈴木孝雄、近藤起佐子、新垣盛一、中尾祐治、依田直也、島田清司、清水盈行、安藤賢一、馬場圭史、田丸謙二、宮崎榮一、太田正利、山川國雄、村井丈深、宮井仁之助、鮎川潤、結城正美、田中京子、平山務、西村史郎、日置一作、佐藤友之助、熊澤善三郎、藤原聖子、岡田光二、小中陽太郎、西崎文子、佐原亜子、小谷清、太田辰幸、上床周、蓼沼宏一、島蘭進、小松良正、喜多村和之、折島正司、滝沢達子、栗本宗治、小田幸信、前川正子、猪口孝、瀬崎仁、三井マリ子、竹内葵、原正、緒方明子、大岡信、渡邊健一、大志万一徳、大津由紀雄、木村美貴子、梶原和子、赤木英子、山田政通、山川隆一、江夏弘、増井志津代、グレーヴァ香子、久代佐智子、井上龍子、栗田修、野口徹、五十嵐武士、黒田由貴子、児玉実英、神戸伸輔、高山修、小野佐和子、石田淳、山科和喜子、西岡秀三、島久代、川島浩平、川崎典子、森本あんり、岡本文雄、成田和信、濱田利郎、常深建雄、椎野信雄、嘉数啓、松本一裕、野上秀雄、横井政時、松尾秀助、梢崎寛、松崎五三男、河原菊枝、加藤俊二、信原尚武、安井美代子、松下彌人、藤本忠善、伊藤久子、寺田博、寺井允英、稲田潔、奥津達朗、松井孝子、畑光夫、戸田三三冬、須磨幸藏、松田保彦、高橋満、小田正弘、上田眞佐子、村山麻美、石井喬、増田信彦、嶋田正、高崎達雄、樺頭秀、林暢夫、田中孝、高橋正夫、高野義雄、辻本文彦、吉田照雄、小川一郎、市橋襄、小川博、飯田正志、白井美由里、小池治、岡真人、大島薫、奥村綱雄、諏訪伸夫、伊藤克敏、北垣宗治、渡辺慶一、下野武彦、大橋守、福崎多恵子、中村紀一、石塚博、高瀬文志郎、関根泰次、三瓶昭一、河野薫、内須川洗、市川芳彦、前川啓治、石倉知之、佐治愿、山田全助、平井満夫、小林實、塚原男、斉藤佳雄、岩崎秀一、田中亮、新倉俊一、沢本守幸、二村敏子、小川富由、赤沢亮、山口和之、星塾慎男、飯野正子、飯野暢、佐々木昭、小泉正明、象野文雄、米林外茂男、山村庄亮、山下知子、多田尚夫、木谷取、中島省吾、西原鈴子、島居鎮夫、金子義一、小松俊典、佐々木彬夫、市岡修、有泉学宙、橋本宏、梅本哲也、長倉繁磨、館澤徳弘、藤吉徳和、山内一也、川邊秀昭、森川定雄、荒木泰治、吉良枝郎、伊藤陽一、梶谷玄、田中茂、岡崎陽一、田淵周吉、伊部泰子、鈴木誠道、渡辺俊一、小田富士夫、石井明、村本正武、水田宗子、深尾凱子、朝田誠、栗本一男、二宮裕子、久茂新、長瀧重信、寛壽雄、吉田政幸、飯島孝夫、江沢洋、山澤逸平、三宅彰、松尾浩也、福原達郎、早勢直、徳増厚二、赤井千智、飯盛亨、矢ヶ崎典隆、山野とも子、景山直樹、長坂淳子、大山正、細川巖、大村裕、石和貞男、新井正男、岡野光彌、赤松敏、渡辺利雄、吉田孝、尾崎豊子、宮部直、荻原敬、倉谷健治、金城盛紀、岸田雅雄、加島聰、森康夫、高原脩、嶋川卓博、高坂健次、津田義夫、武田建、小山敏夫、永井輝夫、田中きく代、鈴木淳一、後藤和彦、入江昌親、難波江仁美、福重元嗣、森永康子、植村泰忠、浅田孝幸、窪園晴夫、阿部英彦、薺哲司、山口辰良、前田専学、川北幸男、齋藤和子、縫田嘩子、金井久雄、衛藤藩吉、田崎義信、宇佐美昇三、稲山誠一、村田安雄、近藤雅臣、柳沢幸、青木英夫、倉田和四生、堀江滋夫、嘉儀隆、羽仁翹、伊藤滋夫、波多野義郎、中西靖子、中島雄次郎、付岡京子、須貝敏也、佐野勝男、久保山盛雄、田村坦之、水田和生、大榎茂行、川淵秀夫、小西弘子、田賀春雄、加藤源、山田裕子、平野仁彦、遠州尋美、堤浩之、前田満寿美、藤枝晃雄、森洋、清水英一、島田法子、佐藤巧二、中村登士子、澤井斌、加須屋弘司、村松岐夫、廣井甫、占部道敏、小田稔、笹井常三、小泉光恵、西村周郎、森塚文雄、林秀生、石川常雄、北川孝司、佐伯胖、霧生吉秀、兼松秀吉、国本伊代、倉沢愛子、吉野直行、矢作敏行、恒川恵子、黒坂佳子、原田敬美、シュベネマン惜美、山本雅英、千葉哲郎、島塚莞爾、森岡俊夫、田篤淳子、穴戸通庸、有賀夏紀、行方昭夫、木原武久、松井倫一、前哲智夫、橋本滋男、舟橋定之、藤田幸雄、藤田勝、半田敏雄、野々垣男、荒木泰子、高木俊夫、東谷公、小浪博英、廣田俊郎、小林萬治、高桑美子、川島康生、紫芝良昌、畑田元義、山岡尚志、北岡文雄、栗原彬、渥美公秀、飯守泰次郎、加茂雄三、小出輝、大津留智恵子、柏木繁男、河田恵昭、白鳥正喜、新川健三郎、都築佑吉、井上眞理子、福田京一、馬場宏、石井かほる、竹尾治一郎、川上与志夫、大石秀夫、久間利昭、鈴木不二男、土田滋、笠原威子、深沢重幸、片山俊、中村陸郎、牛込新一郎、岩根典夫、釜江常好、石谷清幹、五歩一寿子【1万円未満】渡辺道子、長谷川洋、藤田拓男、西原正、郷司敬吾、白石裕比湖、八木良、中嶋啓雄、原田和幸、会田薫子、生井英孝、岩崎里美、大島好美、大城安隆、名幸正行、中山久子、川上一郎、岩湖康民、松本昭夫、藤森万代、嘉陽宗清、荒谷淑子、影山隆夫、高柳信一、岩月善之助、岡見吉郎、川村安宏、光延明洋、高橋寿夫、松延洋平、星野安子、井改実、中田俊彦、荒木辰之助、三宅哲也、富山胖、西平勇吉、添田裕、飯野紀元【1000ドル】小原信、林啓一郎、飯塚黎一【250ドル】伊原通夫【200ドル】ハドソン歌子、難波達治、マックナイト道子【100ドル】朱谷幸子、栗原茂、大和田康之、大貫昌子、長谷龍夫、櫛田利基、石丸昭、柴田千江里、

締切後入金分：

【2万円】斎藤佳雄、岩瀬悉有、熊野善介【1万円】大塚泰一郎、松浦良平、成澤博夫、脇正弘、岸本幸次郎、本田典子、青山孝郎、中村光男、立花孝全、立川明、高原孝生、大橋理枝【5千円】比嘉廣好、木村美貴子

50周年記念募金集計表

1. 地区同窓会別集計表 (円)

同窓会名	人数	入金額
北海道	39	850,000
東北	54	1,654,000
東京	911	22,586,208
北陸	22	421,000
中部	84	2,203,000
大阪	176	3,502,000
京滋	89	2,110,000
中国	57	1,130,000
四国	34	630,000
九州	76	1,802,000
沖縄	73	1,986,000
海外	7	350,000
退会	2	30,000
会員外	1	100,000
逝去	11	308,000
TOTAL	1636	39,662,208

2. 金額別集計表 (USドル)

募金額	人数	入金額
1,000.00	3	3,000.00
250.00	1	250.00
200.00	3	600.00
100.00	8	800.00
TOTAL	15	4,650.00

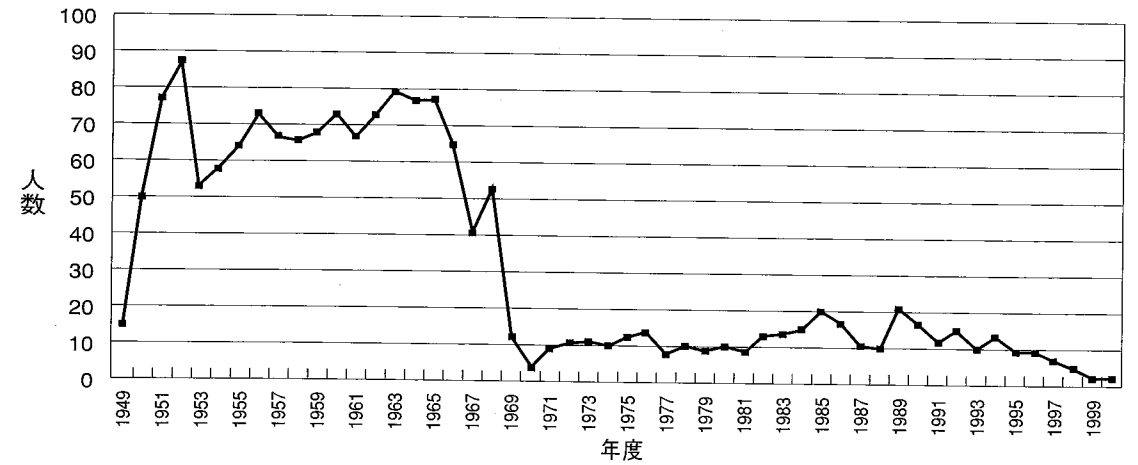
5/22TTM 換算金額 US\$123.90/¥ 576,135

合計金額 40,238,343円
 合計人数 1651名
 締切後入金 190,000円
 17名

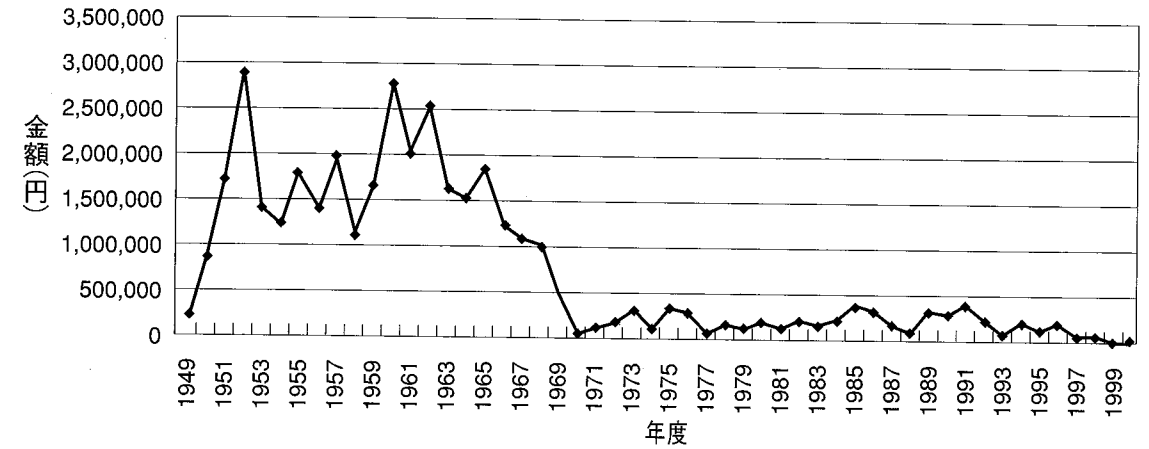
3. 金額別集計表 (円)

募金額	人数	入金額
1,200,000	1	1,200,000
1,000,000	2	2,000,000
500,000	1	500,000
250,000	1	250,000
200,000	7	1,400,000
150,000	4	600,000
130,000	1	130,000
120,000	1	120,000
110,000	4	440,000
100,000	52	5,200,000
90,000	1	90,000
80,000	5	400,000
70,000	2	140,000
60,000	9	540,000
55,208	1	55,208
50,000	65	3,250,000
40,000	28	1,120,000
35,000	1	35,000
33,000	2	66,000
30,000	141	4,230,000
25,000	4	100,000
22,000	1	22,000
21,000	1	21,000
20,000	489	9,780,000
15,000	11	165,000
14,000	1	14,000
13,000	1	13,000
12,000	1	12,000
11,000	2	22,000
10,000	757	7,570,000
8,000	1	8,000
5,000	28	140,000
4,000	1	4,000
3,000	7	21,000
2,000	2	4,000
TOTAL	1636	39,662,208

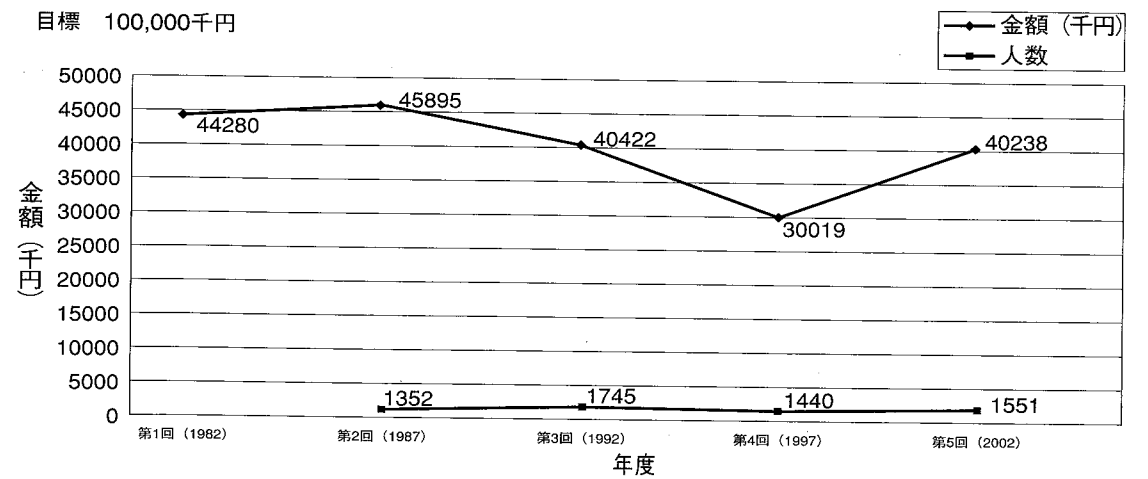
1. 留学年度別募金人数グラフ



2. 留学年度別募金額グラフ



3. 第1～5回個人募金 (50周年記念) 推移グラフ



第3回フルブライト賞授賞式

日米フルブライト交流計画50周年記念式典では、第3回フルブライト賞の授賞も行われました。フルブライト賞は、1992年、フルブライト交流計画40周年を記念して、「フルブライト精神」を発揮した個人を表彰するために設けられ、今回は、1997年の第2回に続く第3回です。今回は特に、「教育交流が、共通の人間性という感覚の醸成に貢献する」ことを実現されるとともに、日米フルブライト交流計画そのものの発展に寄与された方々を表彰することとし、次ぎの4名の方々に、ハリエットMフルブライト夫人から、同窓生の彫刻家伊原通夫氏の制作による記念品が贈呈されました。

故・小山八郎様 (令夫人 小山恒子様)

ロバート・ベーカー様

故・川村茂邦様 (ご長男 川村喜久様)

カロライン・A・又野ヤン様

故・小山八郎様は、1982年の30周年記念事業として、ガリオア・フルブライト同窓会結成と米国人奨学生を増やすための募金活動、さらには、財団法人日米教育交流振興財団の設立に強力なリーダーシップを発揮され、同窓会全国理事会会長、財団の初代理事長を務められました。

ロバート・ベーカー様は、故・小山八郎様とともに1981年、第1回フルブライト・日米交流チャリティ・ゴルフ大会を実現されるなど長年にわたりフルブライト交流計画の良き支援者でした。チャリティ・ゴルフ大会はそれ以来今日まで、毎年多くの参加者を得て開催され、在日米国人の間にフルブライト交流計画支援の輪を広げております。

故・川村茂邦様は、同窓会全国理事会会長として、1992年の日米における40周年記念行事を成功させる一方、米国のIIE (Institute of International Education) の理事も務められ、また、米国人奨学生招聘のため冠奨学金を寄付されるなど、日米フ

ルブライト交流計画の発展に大きな貢献をされました。

カロライン・A・又野ヤン様は、20年以上にわたり、日米教育委員会事務局長としてフルブライト交流計画を日米両国政府の共同事業へと発展させる時期に、故・小山八郎様とともに、当時世界に例を見ない、同窓生による募金活動等を行うガリオア・フルブライト同窓会を結成されました。現在は、米国大統領の任命によりフルブライト対外奨学金理事会理事長を務められておられます。

受賞者の選考は次ぎのメンバーによる選考委員会が行いました。

- | | |
|-----------------|-------------------------------------|
| 金子尚志 | ガリオア・フルブライト東京同窓会会長 |
| 南原 晃 | ガリオアフルブライト東京同窓会会長代行副会長 |
| William Currie | 上智大学学長、日米教育委員会委員 |
| 松原巨子 | ガリオア・フルブライト東京同窓会副会長、50周年記念事業実行委員会委員 |
| 賀来景英 | 50周年記念事業実行委員長 |
| Samuel Shepherd | 日米教育委員会事務局長 |
| 正野敏夫 | ガリオア・フルブライト東京同窓会事務局長 |



(カット 岡松暁子)



■随想■

フルブライト・プログラム 50周年にあたって

日比谷潤子 国際基督教大学準教授

2002年、フルブライト・プログラムは50周年を迎えた。講演会、コンサート、美術展等、さまざまな記念行事が行われ、5月25・26日には一連の催しのしめくくりとして、レセプション、記念式典、シンポジウムが挙行された。私をはじめ日米教育委員会を訪れたのは、1982年3月。たしか、修士課程終了の日だった。同じ大学院の博士課程への進学が決まっていたが、「在学中に留学するのいいかな」と思い、資料を取りに立ち寄ったのである。その年のポスターやパンフレットには「30」の数字が踊っていた。

同年8月、東京で国際言語学会議が開催された。既にTOEFLを受け、第一次審査のための諸書類を提出した段階ではあったものの、留学についてそれほど明確な意志や綿密な計画を持っていたわけではなかった。この会議には、各国から多数の研究者が参加していたが、米国の大学院で学位を取得したばかりの若手研究者の活躍がことのほか目立った。その堂々とした発表態度、明快な論旨の展開、よどみない受け答えは実に刺激的で、米国留学のもたらす実りを具体的にイメージするに至った。しばらくして、第二次審査へ。面接の日は、たまたま25歳の誕生日だった。めでたくペンシルベニア大学大学院言語学科に入学が決まり、翌83年に渡米。新学期が始まる前にジョージワシントン大学でオリエンテーションプログラムを受けた。この夏のワシントンDC



記念式典で司会をした筆者 (鈴木崇典氏・1982年フルブライト撮影)

は華氏100度を超える日も多く、特に後半は記録的な猛暑を理由にさぼりがちになって、どこからみても真面目な受講態度とは言えなかったが、数え切れないほど多くの国々からやってきたフルブライターと同じ寮で寝食(「食」もさることな

がら「飲」、とりわけ麦酒)を共にし、朝から晩までよもやまの話をしたのは得がたい経験であった。

今年の8月、私はフィンランドのJoensuu (この町がどこにあるか、即答できる人にはまだお目にかかったことがない)で開かれたEleventh International Conference on Methods in Dialectologyという国際学会に出かけた。30数か国からの出席者が、徒歩で行き来できる範囲に点在する少数の宿泊施設に泊まり、一週間にわたって、日夜、言語学上の諸問題について議論を深めたが、学会が始まってすぐに思い出したのは、ワシントンDCで過ごした、あの2週間である。

私はフルブライト・プログラムによって長い伝統を誇る言語学科に留学し、あちこちからやってきた院生と机を並べて、卓越した教授陣の指導を受けることができた。国際学会でまがりなりにも発表・議論できるようになったのも、ひとえにそのお陰である。専門分野の教育面で受けた恩恵は、このようにまことに大きかったが、それにもまして意義深かったと感じるのは、多様な背景を持った人々と、国籍・民族・宗教・文化・言語など、あらゆる差異を超えて、共同生活をした体験である。19年前の夏、私は「米国」に行き、そこで数年間勉強するのだと思って、成田を出発した。物理的にはもちろんそのとおりだが、あれはより広い「世界」への旅立ち、そして内なる壁を崩していく営みの始まりだった。

It is quite enough if it (=educational exchange) contributes to the feeling of a common humanity, to an emotional awareness that other countries are populated not by doctrines that we fear but by people with the same capacity for pleasure and pain, for cruelty and kindness, as the people we were brought up with in our own countries.

(J. W. Fulbright)

日比谷潤子 HIBIYA, Junko
1983. U of Pennsylvania Linguistics, Theory

2002年度 東京同窓会総会・懇親会

ガリオア・フルブライト東京同窓会2002年度総会及び懇親会は、去る4月19日(金)東京有楽町の東京会館で開催されました。

今年の総会には77名の会員、ご家族が出席。当日は、ゲストとして李大淳韓国フルブライト財団理事長ご夫妻、米國フルブライト同窓会初代会長ダーデン名誉教授ご夫妻とお嬢様、日米教育委員会関係者13名が列席されました。

引き続き行われた講演会・懇親会ともになかなかの盛況で、年次・留学先の違いを越えてダイナミックに交流を深めた同窓の集いでした。

総会では、小中陽太郎Alumni Meetings委員長が開会を宣し、金子尚志会長の挨拶の後、議事に入りました。皮切りに正野敏夫事務局より、会務報告が行われ、さらに原田敬美監査役より監査報告が行われました。

総会の後、中部大学教授で同大総合工学研究所長・元防災研究所所長野中泰二氏による「世界貿易センターの構造とビル群の崩壊」と題する講演があり、その後参加者からの熱心な質問等もあり、会場が熱気につつまれ、楽しく自由なディスカッションがくりひろげられました。

会長挨拶

金子尚志 KANEKO, Hisashi

1960年 U. of California Berkley Communications Engineering

フルブライト同窓会の会長を務めております、金子でございます。同窓会会員の皆様もご案内のとおり、本年は、フルブライトの50周年記念のための種々の行事が計画されています。

サントリーホールにおいて5月9日、フルブライト音楽祭が行われるのを皮切りに、イベントとしては、25日、土曜日の夕方に、国際フォーラムにおきましてレセプション。それから26日に、50周年の式典、ならびに講演会等がございます。この講演会の結果は、あとで本になって出版される訳でございます。

それと同時に過去、92年、97年にフルブライト賞をさしあげてきたわけでございますけれども今

度は50周年記念ということで、このフルブライト賞の意義を若干変えまして、今回は故人を含み過去のフルブライト同窓会アクティビティの発展に寄与をしてこられた方々に賞をさしあげようということに、本日ございましたフルブライト賞選考委員会におきまして正式に決定いたしました。その結果もご報告申し上げたいと思います。

フルブライト賞は、初代の同窓会長の故・小山八郎さん。それから第3回の会長を務められ、フルブライトチャリティゴルフの推進等にもたいへん寄与されました、河村さん。それから、現在アメリカのフルブライト委員会の理事長を務めております、日米教育委員会の、シェパードさんの前任でいらっしゃいました、カロライン・A・又野ヤンさんです。過日ニューヨークのメトロの賞も受賞された方でいらっしゃいます。それから4人目としましては、もう既にアメリカにご帰国になりましたけれども、ロバート・ベイカーさん。この方は、小山さん、あるいは今の又野ヤンさん、あるいは河村さんなどと一緒に、チャリティゴルフのイベントの推進にたいへんご努力をされたというわけ、今、申し上げました4人の方々に賞をさしあげたい。

この賞は、50周年の記念行事の場面で、フルブライト夫人から手渡していただく。もちろん故人の方には、ご遺族の方に手渡しをさせていただく、そういうことが決まりましたので、ご報告を申し上げたいと思います。

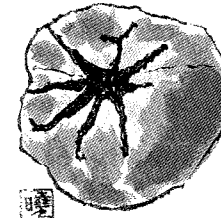
それから50周年募金の結果は、3,700万円を突破する状況に、現在、至っております。この3,700万円という額は、5年前の募金額を突破しております。この5年間に同窓会の方々がそれぞれに5年ずつ年を取られている。そういう中で、前回は越える募金額をいただいているということは、フルブライト同窓会会員の皆様方が、いかにフルブライト事業に対する感謝の気持ちを表しているということで、私はたいへん感銘深くこれを受けとめておるわけでございます。この集まりました募金は、当然のことながらフルブライト財団のほうに寄付されます。寄付は、26日の記念行事の中で財団にさせていただくという次第になっておるわけでございます。

2002年度総会での各種報告

2002年度役員

- 会長：金子尚志
- 副会長：南原晃(会長代行) 佐藤ギン子 有馬朗人 小西輝明 *松原亘子 白鳥正喜
- Alumni Meetings 委員長：小中陽太郎
副委員長：日比谷潤子
- Hospitality 委員長：太田隆次
副委員長：島田道子
- Publicity 委員長：加藤幸男
- 監査役：原田敬美

注) 副会長の*松原亘子氏は、日本国政府により9月24日(火)付にて駐イタリア大使に任命されたため副会長を辞任されました。



(カット 岡松暁子)

2001年度会務報告

- 01.04.13 2001年度総会及び懇親会(於東京會館)。講演者：日比谷潤子氏。出席者：会員34名、シルバ一会員29名、その他14名、合計77名。
- 01.05.31 アメリカ人フルブライターの為に最高裁判所及び国会の見学会。
参加者：17名(フルブライター9名、その他8名)。
- 01.06.19 FMF夕食ボランティア会員22名協力。
- 01.06 FMF都市同行ボランティア、栃木市・土浦市・水戸市・伊勢崎市に会員各1名計4名同行。
- 01.06 フルブライト50周年記念第5回個人募金開始
- 01.09.21 日米協会主催のベーカー大使夫妻歓迎晩餐会(於ホテルオークラ)に参加。出席者：会員21名、その他(5名)。
- 01.09.23 日米協会、日本政府主催の米國テロ被害者追悼・お見舞いの会(於東京ビックサイト)に共催参加。Newsletter Vol.14を発行。
- 01.09 FMF夕食ボランティア会員17名協力。
- 01.10 FMF都市同行ボランティア、国分寺市・厚木市・富士吉田市・須坂市に会員各1名計4名同行。
- 01.10.15 第25回日米交流チャリティ・ゴルフ大会(於戸塚カントリー倶楽部)。参加者155名。募金額約550万円。
- 01.11.07 故マンズフィールド元駐日大使追悼会(於ホテルオークラ)を日米協会主催のもと、国際文化会館、日米経済協議会他と共催。
- 01.11.13 FMF夕食ボランティア会員26名協力。
- 01.11.19-21 アメリカ人フルブライターの為に宇都宮ツアー(日光東照宮、益子焼など)2泊3日。参加者12名
- 01.11.22 アメリカ人フルブライターの歓迎会(於六本木プリンスホテル)。出席者：会員30名、グランティール14名、その他35名、合計79名。
- 02.03.04 東京同窓会役員会。
- 02.03.26-30 アメリカ人フルブライターを成田空港に出迎え。

2001年度決算 金額(単位：千円)

収入の部		支出の部	
会費	4,901	旅費交通費	64
寄付金	18	通信費	1,574
受取利息	19	印刷製本費	658
募金手数料	1,019	什器備品費	398
PC賃貸料	240	修繕費	80
当期収入計(A)	6,197	消耗品費	5
前期繰越	18,531	地代家賃	289
		会合費	261
		倉庫料	144
		事務用品費	111
		給料手当	2,671
		奨学生費	257
		支払手数料	6
		図書購入費	1
		会議費	88
		雑費	48
		予備費	0
		当期支出合計(C)	6,655
収入合計(B)	24,728	次期繰越	18,073

2002年度予算 金額(単位：千円)

収入の部		支出の部	
会費	4,740	旅費交通費	60
寄付金	13	通信費	1,300
受取利息	21	印刷製本費	560
募金手数料	1,872	什器備品費	160
PC賃貸料	240	修繕費	96
当期収入計(A)	6,886	消耗品費	7
前期繰越	18,073	地代家賃	260
		会合費	0
		倉庫料	130
		事務用品費	130
		給料手当	2,360
		奨学生費	260
		支払手数料	8
		図書購入費	10
		会議費	100
		雑費	50
		予備費	300
		当期支出合計(C)	5,791
収入合計(B)	24,959	次期繰越	16,968

2001年度決算 2002年度予算

当期収支差額(A) - (C)	-458	1,095
50周年記念出版物購入(C)	-	2,200
次期繰越(B) - (C) - (D)	18,073	16,968

中部大学教授 総合工学科研究所長
工学博士 (京都大学)
野中 泰二郎氏
講演趣旨

世界貿易センターの 構造とビル群の崩壊

(注: 本稿は、ご講演テープの一部を出来る限り忠実に掲載したことをご寛恕いただきたく
願います。 編集担当より)

要約しますと、戦闘機をコンクリートの壁に当てた結果、ほぼ0.1秒の間に8,000トンぐらいの荷重が作用するという結果が、シュミレーションから得られております。そして、コンクリートにジェット機が当たってどういう被害を受けるか、穴が開くところまでいったわけなのですが、そういうところも実際に撮影されております。

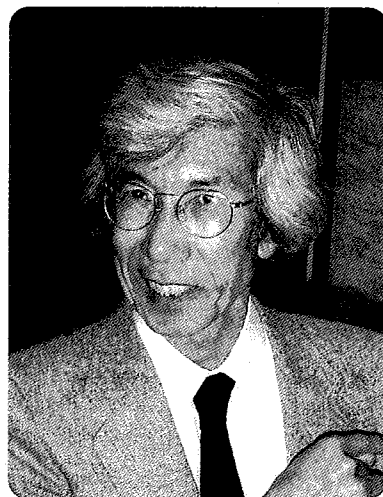
それから、9月11日の事件のほんの数日後に現場をヘリコプターから撮り状況が観察されたわけですが、被害状況の判断の根拠にもなるとして写真をお見せしたわけですが、あとでその結果、第7ビルが倒れた方向は静止画でご覧いただけるかと思えます。

その次に静止画に移りますけれども、これは雑誌の一部をお見せしているわけです。実に悲惨な状況、この中で働いていた人たちが叫び声を上げて助けを求めている状況。そしてそうとう多くの方が、結果的には飛び降りて死亡されたものだと思います。

これは、昨年の11月、事件から2ヵ月後に私がまいりまして、ヘリコプターから撮った写真でございます。まだこの現場には入れてもらえなかったわけですが、このワールドフィナンシャルセンターのビル群の向こう側にツインタワーが建っていたわけでありまして。もうまったく無くなった状況がこれでお分かりいただけるかと思えます。

その時に撮った写真がこれでございます。向こうに見えるのがUSカスタムズ (税関の建物) です。

そのクローズアップがこれでございます。もう少し近くへ行って撮ったものであります。これ



野中 泰二郎氏

講演者 野中 泰二郎氏プロフィール

専門:	構造工学、応用光学、塑性解析
略歴:	1936年5月 大阪府生まれ
	1955年3月 大阪府立住吉高等学校卒業
	1959年3月 京都大学工学部建築学科卒 同大学院修士課程 米国ブラウン大学大学院 博士課程修了
	1964年2月 京都大学助教授 (防災研究所)
	1979年6月 同教授
	2000年4月 同名誉教授 日本建築学会会員

がそれでありまして。それからその近辺の建物、これが東側にありますオフィスビルです。

これは私が撮ったものではないのですけれども、事件後、間もなくその周辺に見られた情景でございます。ここに先ほどお見せしました、ツインビル崩壊後の鉄骨の骨組みが見られます。確かに、この3本の柱と、3階分の梁が組み立てられた状況がこれで分かります。

構造の専門家は、どういふふうにこの柱同士が結合されていたのが非常に興味深いことかと思ひまして、これをお見せしているわけですが。専門的には「メタルタッチ」と申します。柱をつなぎ合わせる時に、引っ張り応力は非常に小さい、あるいはゼロだということから、メタルとメタルとを付ける接合方法になっている。そして、このような穴を開けてボルトでつなぐだけだったということ。これはひょっとしたら破壊のモードに深いかかわりがあるかと存じますが、こういうふうな形で積み上げていったものですから、最終的にはこのようなものがいくつか散らばった状況だったに違いないと思ひます。

どうしてああいう形でタワーが壊れたかという

ことなのですけれども、皆さん、よくご記憶だと思ひます。上から下へ崩れるように、両方のタワーが崩れていったわけです。専門家もああいう壊れ方をするだろうということは、だれも想像しなかったと思ひます。

普通、建物というのは、倒れるときに横転するような形で倒れるというふうに想像するものだと思ひまして、これは同じ年、93年の12月に私がマレーシアへ行って手に入れた写真です。93年の爆発テロがあった冬に、このマレーシアの高層マンションが地滑りで壊れました。左側が高い斜面で、熱帯のジャングルを切り開いて、高級マンションが建設されていた。ちょうどレイニーシーズンです。この辺りは雨季であって、数日雨が降り続いたために、山が崩れるように地滑りが起こって建物が倒れたわけなのですが、このように横に倒れていったということ。

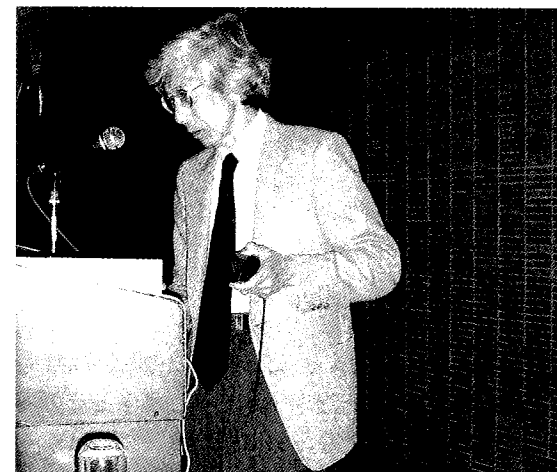
ついでに興味深いかと思ひますが、この二つの部分がほぼ剛体的に傾いていっているということが、これで観察されます。ということは、この間は剪断で非常に大きな変形を受けたに違いないと考えられます。その部分に階段棟がありまして、ここに住人が殺到したわけですが。非常に大きな変形を受けた階段棟にほとんどの人が逃げ込んだために、大勢死にました。50人が死亡したと記憶しております。

こういう被害があったわけなのですが、その次の瞬間を見ていただきますと、こんな状況です。まさにこれは転倒です。これは土煙がたっている瞬間ですが、こういうふうにより高い建物が壊れるときには、横へ転倒するのが普通だと思ひます。水平に地盤が揺れる地震のようなときにも、やはりこのような壊れ方をするのが普通かと思ひます。

それでは、どうしてツインタワーはあんな形で、あんな破壊モードで壊れたかということを理解するためのスケッチがこれでありまして。

これはバサンというアメリカの大学の先生が書いた論文の一部をお見せしているわけなのですが。

これは一つの棟、北棟も南棟も同じような形で壊れたわけなのですが、この階にジェット機が当たったとしますと、そのジェット機が当たったときの衝撃によって、鉄骨の建物ですけれども、鉄骨が覆われていた耐火被覆はその衝撃力によって、まずはがれるということが考えられます。そしてジェット機は大量の燃料を積んで爆発したわけですから、火災が発生しました。高熱が発生したに



違ひありません。おそらく800度を越える温度になったろうと言われております。そうしますと、鉄は熱には弱いものですから、500度を越えると急に柔らかくなって、800度でくやくにゃになるということが想像できます。そうしますと、くやくにゃになった柱は、その上の重みに耐えられなくて座屈する。そして座屈しますと、もちろん鉛直力を支えることはできませんから、上からドスンと落ちてくる。そうしますと、もともと大量の燃料が燃焼することによって柔らかくなっていた鉄骨の柱が、この部分だけではなく、下にも燃料が落ちたかもしませんから、柔らかくなっていた。そこへもって来て上からドスンと重いものが落ちてくるわけでありまして、下の部分はその重い重量を支えられなくて、どんどんと下へ崩れていったものと考えられます。

薄い金属のパイプに上から衝撃力を加えますと、このような形の座屈現象が観察されることがあります。プログレスバックリム、上から順番にしが寄って行ってこのような形で座屈する、こういうタイプのものではありますが、ちょうど象の足をひっくりかえしたような形をしておりますから、「エレファントフットパレッジ」という言葉も使います。このようなものが、粘り強いパイプですと観察される。実際の建物ですと、こんな大きな変形には耐えられませんが、柱がばらばらになって、梁もばらばらになって壊れていったものだと想像できます。

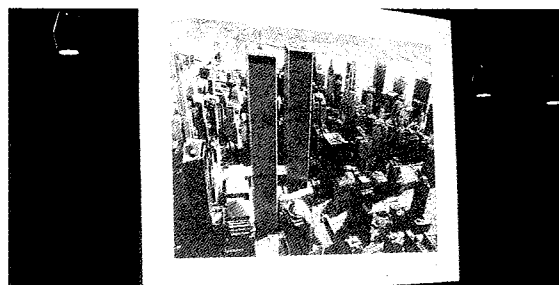
これは地下構造の断面を示しておりますが、北側の棟の下のほうはこんなふうになっておりました。地下のこの辺りは、冷暖房の設備がありますために、床が一部ありませんが、これはブラザレベル (地上階)、そして地下1階・2階というふう

にいきまして、特にこのB1とB2階の床が構造的な床、構造的には「ダイヤフラム」といいますけれども、面内の剛性によって周辺の地下連続壁を支えていたわけでありまして。これが地下の擁壁（ようへき）であります。こちらにもあります。その擁壁をこの床で支えていた。その上に建っていたタワーが下へ落ちてきたために、たぶんこの床が壊れたであろうと私は想像しているわけなのです。このダイヤフラムが壊れますと、そのダイヤフラムに支えられていたところの擁壁も、当然こちらのほうへ倒れたらう。そうしますとその外側に建っていた建物も、徐々に、そしてゆっくりと中へ崩れるように倒れていったのではないかと、というふうに想像したわけなんです。

これは北棟の標準的な階の設計図をお見せしているわけなのですが、外側がチューブで中側がコア。そしてこれがプラザレベルの平面、やはり設計図であります。その地下構造がこういう状況になっていくとご理解いただくために、順番に地下の平面をお見せします。これがその下、コンコースレベルの平面図です。そしてB1階の平面図、ここにノースタワー、サウスタワーがありまして、ここがビスタホテルということですが、これがB1、B2、そしてB3。この辺りになりますと、東側のオフィスビルの地下はありません。このツインタワーの地下だけになります。

先ほど言い忘れましたが、こういう形でニュージャージーからの地下鉄が入っております。こちら側には南北の地下鉄が走っていたわけなのですが、もう地下の3階辺りになりますと、このようにほかの建物はございませんで、ツインタワーの地下だけになってしまいます。周辺は駐車場です。これがさらに地下4階、B4だと思えます。B5、もうこの地下鉄の路線が見えます。こういうふうな形でニュージャージーから入っておりますために、この擁壁の一部はこのような形をしていたわけなんです。これがいちばん下、B6階の平面です。

これはエアショット、ヘリコプターから撮った



ものの1ショットであります。これがワールドトレードセンターのコンプレックスでして、今ここでお見せしていますが、こういう方向から撮ったものであります。これがUSカスタム（税関の建物）です、その向こう側に例の第7ビル、47階建てのビルの残りが見えます。それが中心方向に向かって倒れたのではないかと私は判断しているわけなのですが、もし擁壁が壊れて、この建物も壊れたとすると、そちらの方角へ壊れたのではないかとということで、特にその壊れた方向をお見せするために写している画面でございます。これがこちらから撮ったものであります。

これがその第7ビル、47階建てのビルの後ろから見た格好ですが、向こう側に北棟が建っていたわけなんです。その中心へ向かって倒れた様子が、これで見られます。これは最後にこちらから撮った写真。これがやはり税関の建物のほうへ第7ビルが倒れていった状況が見られると思えます。こういう方向に倒れたのではないかと。つまり、外側に建っていた第7ビルが、ワールドトレードセンターの中心に向かって倒れた様子がこれで見てとれます。

そのあとの被害の状況を示したものがこれです。これがワールドトレードセンターの一画でして、ツインタワーが無くなっております。その間にありますホテルも無くなっております。そして先ほどから議論しております、第7ビル、47階建てのビルも崩壊しております。その周辺のこのワールドトレードセンターの二つのオフィスビルと、それから税関の建物が部分的に崩壊したということの調査結果でございますが、それだけではなくて、さらにこの紫の部分も非常に大きな被害を受けた。こちら側がワールドフィナンシャルセンターであります。さらにその外側のこの黄色い部分も被害を受けた、緑の部分は大丈夫だったという調査結果でございます。

ホスピタリティ委員会の

活動報告

1. 宇都宮旅行・国会見学

島田道子 SHIMADA, Michiko

1957 U. of Minnesota American History
(Hospitality委員会 副委員長)

宇都宮旅行

第13回目の宇都宮ツアーが、平成13年11月19日から21日まで行われた。私が担当するようになって3度目のツアーである。前は家族連れが多かったが、今回は唯一家族参加予定のラウス氏夫人の具合が悪くなり、急遽不参加になったので、全員フルブライターだけの9名であった。



宇都宮駅で東京から来た私たちと地方から直接来た人達と合流し、「いっくら」国際文化交流会の松井・坂口さんに迎えられ、昼食会の会場に向かう。会場には「いっくら」会長の長門さんも待っていて下さり、再会を喜び合った。畳の上での会席料理は大好評で、王侯貴族になったようだと呼ぶ人もいて、フルブライター一同大喜びだった。

午後は裏千家茶道教授の斎藤宗琢氏のお宅を訪問し、茶庭のある広いお屋敷で、先生のお手前を拝見し、お茶の心を聞き、奥様手作りのおしる粉を御馳走になり、お茶をいただいた。この後、希望者は先生御指導の下にお茶をたてた。皆たいへん熱心だった。その後2階で奥様の日本舞踊を鑑賞し、とび入りで日本舞踊を習っているというウイトニー・ミラー嬢が私達がうたう「さくらさくら」に合わせて踊ってくれた。

夕方コンソレで、ホストファミリーに会い、



それぞれの家へホームステイした。

20日は日光及び東照宮を見学し、21日は益子へ行き、ハンガリー出身の故ワグナー・ナンドール氏の彫刻による「哲学の庭」を見学したり、藍染の工場見学、益子焼のショッピングなどを楽しんだ。フルブライターの旅行後のコメントをみるとたいへん有意義で楽しい3日間であったことがわかる。この旅行の計画、案内をやって下さり、ホームステイの場所を提供して下さいました「いっくら」の会員の皆様、半日私共のために奉仕して下さいました茶道の斎藤先生に、心から感謝する次第である。本当に楽しい、いい旅だったといってくれるフルブライターの顔をみると疲れがふっとんで、私もとても幸せな気持ちになった。



国会見学

5月29日、8名のアメリカン・フルブライターと一緒に国会及び最高裁判所を見学した。今年は午前中に国会を、午後から最高裁判所を訪問した。

午前9時、赤坂の日米教育委員会の事務所に集合し、正野事務局長、同窓会事務所の山田さんと私が3台のタクシーに分乗して、国会通用門へ行く。津島雄二衆議院議員（55年Syracuse）の秘書毛利智美さんが待っていて下さり、男性のガイドさん

を紹介して下さった後、さっそく国会内に入る。正面玄関の3人の銅像のあるところから豪華な天皇陛下の控えの間、衆議院本会議場などを案内して下さいました。

当日は修学旅行の生徒が大勢いて廊下をすれ違うのがたいへんだったり、外では医療制度や有罪法関連制度に反対する団体が座りこみ、スピーカーで叫んでいるので、たいへんにぎやかであった。フルブライターの一人がワシントンD.C.の光景と全く同じだとつぶやいていた。

その後、道路を横切って議員会館へ移動した。2階の会議室に通され、津島議員にお会いした。国会期間中でたいへんお忙しい中、津島議員はにこやかに、ブリティッシュアクセントのある流暢な英語で、現在審議されている重要法案について簡単に説明して下さいました。また秘書問題でゆれた事件やちょっとした裏話を、ユーモアたっぷりに話して下さいましたので、はじめ少し緊張ぎみのフルブライター達もすっかりリラックスして、郵政関連法案についてやいろいろな質問も出た。はじめ30分の予定の会見を15分もオーバーし、遂に男性秘書の方が心配して立ち上がったにもかかわらず、簡単な質問だからとくいさがる人もいたほどだった。

議員会館を出ると丁度お昼になっていたのですが、一旦日米教育委員会の事務所に戻り一緒にサンドイッチの昼食を楽しんだ。午後からは高澤先生の御案内で最高裁判所を訪問した。

2. 最高裁判所見学

高澤 廣茂 TAKASAWA, Hiroshige
1966 U. of Utah Social Deviance/Criminology (元副会長)

2002年(平成14年)5月29日(水)午後1時30分
米国人フルブライター等の最高裁判所見学が行われました。

参加者は、米国人フルブライター7名、その配偶者1名、米国人前フルブライター1名、同窓会の役員等4名合計13名でした。

日程は例年通り午後1時30分濱田邦夫最高裁判所裁判官(フルブライター、1965年ハーバードロースクール)に対する表敬訪問、英語版ビデオ「司法



制度と最高裁判所」の上映、これに続く質疑応答(英語、手嶋あさみ参事官)、大法廷、小法廷、図書館、特別閲覧室等の見学が行われ午後3時30分に一同退出しました。

建物の全容を見るため一行は東向の正面玄関から入り、帰りは、一般職員用の西向の西門から出ました。

ハイライトは、表敬訪問でした。濱田裁判官は、予定時間は5分位のところ20分以上にわたり、英語で応対されましたので、米国人フルブライターにとっては、予期せぬ質疑の機会でもあり、大変よろこんでおりました。

過日国際文化会館でのレセプションの際に米国人見学者1、2名に声を掛けていただき、あの見学は、非常によかったといわれ、世話役も大変よろこばしく思った次第です。本年は参加者が少なかったが、来年は、もっと多数の米国人フルブライターに参加していただきたいと願っております。

3. アメリカンニューグランティー歓迎会

恒例の、その年に新しく来たアメリカングランティーの歓迎会がグランティーと家族、冠企業、日米教育委員会、同窓会員など79人が集まって、2001年11月22日に、昨年と同じ六本木プリンスホテルで開かれました。

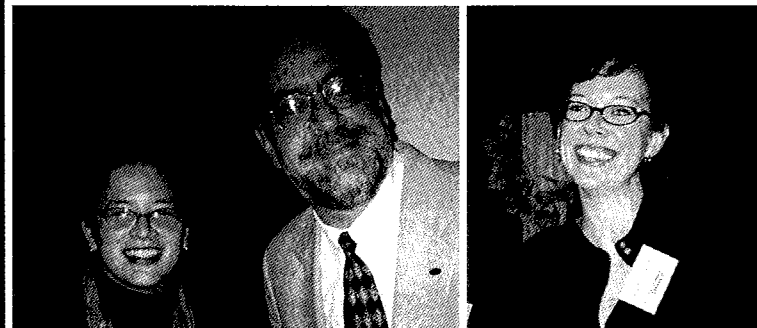
金子会長から歓迎の挨拶、シェパード日米教育委員会事務局長の挨拶の後、各グランティーから日本語あるいは英語で自己紹介をして頂きました。なかには、大変ユーモラスな自己紹介もありました。

いつものことながら、このアメリカンニューグランティー歓迎会では、アメリカングランティーだけでなく、日本人同窓会員の久しぶりの再会やガリオア時代の古い同窓会員から、若い同窓会員への思い出話の披露、同窓会事務局への意見、注文など多目的のにぎやかなパーティーで盛り上がりました。

2002年度も計画していますので、日時、場所が決まり次第、同窓会員にご連絡いたします。多数のご参加をお待ちしています。

4. 出迎えサービス

太田 隆次 OTA, Ryuji
1967 U. of Wisconsin Labor & Industrial Relations



アメリカングランティー歓迎会にて

(ホスピタリティ委員会委員長)

成田空港での出迎えサービスについて、2001年度の活動を報告します。

1989年度から始めた「出迎えサービス」は、多くのボランティアと家族の方々のご協力、2001年度末で延べ133人のアメリカングランティーを成田空港で出迎えました。東京地区だけでなく、北海道から沖縄まで日本各地の大学に行く人が多いのですが、各地に直行しないで、日米教育委員会でオリエンテーションを受けるため、ひとまず都内のホテルに2、3泊してから目的地に向かうのが通例です。

出迎えた人は、大きな荷物は成田空港から宅配便で落ち着き先に送る手伝いをするのですが、アメリカンフルブライダーが持っているのは、ロー

マ字の住所です。これが遠隔地の地方だと、宅配便の受付泣かせで、長い行列を待たせているので忙しくて調べる時間がないので、到着地の配達担当のために必ず日本語で書いて欲しいと苦情を言われます。たとえば、大阪出身の私は、Machikane-yamaは待兼山と見当がつかますが、北海道や沖縄県のローマ字で書いた地名の日本語が分からず、立ち往生してしまい、後に並んでいる人たちからせきたてられ、アメリカンフルブライター共々、困惑したことがあります。一計を案じてその次からは郵便番号簿を持参していますが、電話帳サイズでかさばるので、落ち着き先が分かっているときは、見当をつけたページをコピーしてポケットに入れて行きます。そういう時に限って客が少なく、宅配便の受付の人が親切に調べてくれたりします。郵便番号簿を宅配業者が受付に備え付けてくれれば良いと思うのですが。

FMFへの 協力ボランティア活動

●フルブライトメモリアル基金 (FMF) は、我が国が第2次大戦後の復興と経済発展にあたり、フルブライト交流計画により多大の恩恵を受けたことに謝意を表すため、1997年日本政府が「フルブライト精神」にもとづき、初等・中等教育の日米教員交流を目的として、新たに設置した交流プログラムです。

●このプログラムにより、毎年約600人の初等・中等教育に携わる米国人教職員が全国各地の学校等の教育現場を訪れ、地元の関係者と交流し、教育事情のみならず文化・社会についても広く体験しております。

●FMFからの依頼により、東京同窓会では1997年以降、毎年同窓会のボランティア活動として、①米国人教職員の東京到着初日の夕食案内、②受け入れ都市の市長表敬訪問の際、日米教育委員会代表代理として同道することを行って参りました。2001年度及び2002年度上記にご協力頂いた同窓生の人数は次の通りですが、毎回米国人教職員及びFMF関係者の双方から大変感謝されております。

2001年：① 6月 22名、10月 17名、11月 26名
② 6月 栃木市、土浦市、水戸市、伊勢崎市 各1名
10月 国分寺市、厚木市、富士吉田市、須坂市 各1名

2002年：① 6月 20名
② 6月 市原市、伊那市 各1名

●これまでFMFへの協力ご依頼は、同窓会員に対し数年前に行ったアンケートにもとづいて行って参りましたが、新たにご協力いただけるご意向の方は、事務局宛てメール、ファクス等でご連絡下さい。

●同期の人、専門分野の人、同窓会や専門分野会を企画されるグループの方には、できるかぎり資料リスト・ラベル等をお送り致します。ご遠慮なく同窓会事務局までご連絡下さい。

第26回日米チャリティ・ゴルフ大会

1982年にガリオア・フルブライト同窓会が結成されて以来、米国人留学生の奨学資金のための募金活動として、毎年日米チャリティ・ゴルフ大会が行われてきました。第26回大会は、2001年10月15日(月)戸塚カントリー倶楽部で、成田豊(株)電通社長とロバートF. グロンデイン在日米商工会議所会長が共同実行委員長を務められ、さわやかな秋晴れの下、日米両国の各界から155名の方々が参加し、のびのびとプレーを楽しまれました。

優勝はグロス86、ネット69.6のスコアでまわられたジョン・バーバーAOLタイム・ワナー副社長で、駐日米国大使館を獲得されました。和気藹々とした懇親会では、全ての参加者が、協賛各社から提供された多くの賞品に与りましたが、特にダイムラー・クライスラー日本(株)より寄贈され、オークションにかけられた「スマート」1台は、94万円で落札されました。

大成功に終わったこの大会の収益金約550万円は、日米教育交流振興財団に寄贈され、米国からの留学生招聘に使われます。

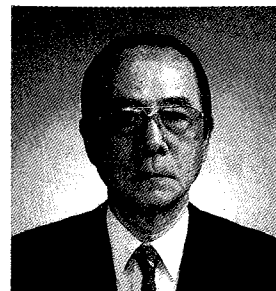
また今回は、これまで20年間にわたり、毎年チャリティ・ゴルフの会場を提供して下さっている戸塚カントリー倶楽部が創立40周年記念をむかえたので、長年日米フルブライト交流計画にご協力頂いたご好意に感謝し、フルブライト関係機関を代表して東京同窓会金子尚志会長から、同倶楽部吉岡文平理事長に「記念楯」が贈られました。

なお、日米フルブライト交流計画50周年記念・第27回日米チャリティ・ゴルフ大会は、本年10月28日(月)、戸塚カントリー倶楽部において、宮原賢次住友商事(株)会長とロバート・グロンデイン在日米商工会議所会長が共同実行委員長を務められ、開催されます。



「記念楯」を真ん中に戸塚カントリー倶楽部吉岡文平理事長、金子尚志東京同窓会会長

日米教育交流振興財団の状況 (フルブライト記念財団)



内古閑俊二
フルブライト記念財団理事長
Shunji, Uchikoga
President, Fulbright Foundation

1. 財団の活動

日米教育交流振興財団(フルブライト記念財団)は1986年、より多くの米国人留学生を日本に迎えるための募金活動を円滑にする目的で、ガリオア・フルブライト同窓会により設立されました。以後今日まで、毎年約7~8千万円をフルブライト交流計画に提供して参りました。最近の募金状況は次の通りです。

(単位:千円)

冠企業等	2000年度	2001年度	2002年度 (見込)
A50	63,520	94,415	15,500
国際経済交流財団	7,359	6,905	4,500
三菱グループ	5,000	5,000	5,000
トヨタ自動車	5,000	5,000	5,000
YKK	10,000	10,000	10,000
チャリティゴルフ	5,528	5,482	5,500
個人募金	1,070	36,577*	3,661*
合計	97,477	163,379	49,161

* 50周年記念募金合計 40,238千円

2. 故上村和子元日米教育委員会交流部長の遺贈

このほど亜細亜大学教授上村裕一様より、同氏夫人故上村和子様のご遺志として、日米教育交流振興財団に500万円のご寄付がありました。

故上村和子様は1966年ハワイ大学大学院ご卒業の後、在日合衆国教育委員会(現在の日米教育委員会)にお入りになり、以後長年にわたり日米教育交流に携われ、1980年からは交流部長として昨年5月に定年退職されるまで、教育交流促進に尽くしてこられました。このことは、日米両国の多くのガリオア・フルブライ

ト同窓生が、さまざまな交流活動の場面で、故人のお世話になり既にご存じのことですが、本年5月16日、日米フルブライト交流計画50周年記念式典を目前に60歳で逝去されました。

今後当財団で、和子様のご遺志に沿う具体的方式を検討いたしますが、ここに改めて故人のご冥福をお祈り申し上げますとともに感謝をこめてご報告申し上げます。

3. 財団の新しいプロシユア

1986年の財団設立当時、広く企業・団体・個人に財団の目的や活動について理解を得、冠奨学金のご寄附を求めため、最初の財団プロシユアが作られました。冠奨学金は一時期約20企業・団体・個人から提供されましたが、その後経済情勢悪化等により減少し、現在では左表の通りとなりました。

今年5月、50周年記念行事の機会に、改めて日米両国の各方面の関係者にご理解とご協力を得るため、新しいプロシユアを作りましたので、ご活用いただける方は事務局宛てにご連絡下されば、必要部数をお送りいたします。

4. 役員等の改選

財団の機関は、内古閑俊二理事長、賀来景英副理事長はじめ理事24名、監事3名、評議員22名、審査委員10名、最高顧問2名、顧問4名の同窓生により構成されております。

2002年6月28日開催の理事会・評議員会で役員改選が行われ、新たに理事4名、評議員3名、審査委員3名、顧問1名の方々が選任されました。改選後の役員等の名簿は次頁表の通りです。

5. A50—フルブライト奨学金事務局業務の受託

サンフランシスコ平和条約締結50周年記念事業の一環として、2001年2月発足した、*A50—フルブライト奨学金制度の事務局業務を、本年3月よ

り、「A50—フルブライト奨学生選考委員会」(大河原良雄会長)から当財団が受託し、行っております。

注)「A50」の「A」は、感謝の気持ちを表すAppreciationとAmericaの頭文字であり、「50」は50周年と全米50州、さらに日米関係の次なる50年を意味するものです。

6. インターネットによる財団のディスクロージャー

下記の同窓会・財団のホームページで、財団の寄付行為、役員名簿、2001年度財務諸表等の情報公開資料をご覧になれます。

<http://www.fulbright.or.jp>

2002/2004年日米教育交流振興財団・地区別役員等 (敬称略)

地区	顧問	理事 (24)	監事 (3)	評議員 (22)	審査委員 (10)
北海道		有江 幹男	高向 巖	熊本 信夫 岡田 宏明 関口 恭毅	曾野 和明
東北		青木 茂之 仁科 雄一郎		高橋 剛夫 吉川 清隆 鳥羽 良明	菊池 和聖
東京	大河原 良雄* 平野 龍一	内古閑 俊二 賀来 景英 小西 輝明 渡邊 宏 金子 尚志 佐藤 満秋 桐淵 利博**	高澤 廣茂	太田 隆次 深尾 凱子	山本 澄子**
中部		木下 宗七		千田 純一 上田 慶一	岩野 一郎
京滋	岡本 道雄*	榊原 胖夫 西島 安則		市村 真一	千葉 哲郎**
大阪	川淵 秀夫 刺賀 信雄 金辻 信弘**	牧野 信夫 小原 望** 後藤田 輝雄**		重里 俊行**	山藤 泰
中国		木村 榮一 隅出 昂伸		坪井 清彦 三好 啓治	祐宗 省三
九州		原口 三郎 今里 滋	小木野 一	林 弘子 落合 太郎** 西田 昭彦	永田 元義
沖縄		比嘉 幹郎 東江 康治		川満 敏 宮城 宏光 下地 守	瀬名波 栄喜
北陸		星野 命**		森田 幸夫	橋爪 祐美
四国		三木 吉治		太田 英章**	

* 最高顧問 ** 新任役員等

2001/2002年度財団奨学生冠名リスト

	2001年度	2002年度
採用者数: Fulbright Fellows (Recent B.A.)	-FF 7名	7名
Graduate Research Fellows (Graduate Students)	-GRF 4名	4名
Graduate Students - Japanese	-GSJ 1名	1名

2001年度

<Americans>

冠企業名	奨学生名	カテゴリー	大学名
1 国際経済交流財団	TEELA, Katherine C.	FF	長崎大学
2 国際経済交流財団	DUGGINS, Molly S.	FF	龍谷大学
3 三菱グループ	SHAPINSKY, Peter D.	GRF	東京大学
4 YKK	VICKERY, George K.	GRF	日本大学
5 トヨタ自動車	TAKAHASHI Kiyouko	FF	岐阜大学
6 志野基金	HEALY, Matthew J.	FF	和歌山大学
7 九州同窓会	CATHCART, Brian T.	FF	九州大学
8 全国同窓会	THRONBER, Karen L.	GRF	東京大学
9 全国同窓会	SCOTT, Christopher D.	GRF	日本大学
10 全国同窓会	BRYANT, Madika M.	FF	神戸市立外国語大学
11 全国同窓会	OUTMAGIE, Keith B.	FF	北海道大学

<Japanese>

1 YKK	庄司 香	GSJ	Columbia U.
-------	------	-----	-------------

2002年度

<Americans>

冠企業名	奨学生名	カテゴリー	大学名
1 国際経済交流財団	LIN, Jocelyn	FF	東海大学
2 国際経済交流財団	RUTHERFORD, Daniel J.	GRF	京都大学
3 三菱グループ	STAVROS, Matthew G.	GRF	京都大学
4 YKK	NOVAK, David E	GRF	京都市立芸術大学
5 トヨタ自動車	PLANTE, Michel D	FF	大阪大学
6 志野基金	UYEKUBO, Sandy M	FF	南山大学
7 全国同窓会	GRUENER, Douglas G	FF	神戸大学
8 全国同窓会	JOHNSON, Kristen M	FF	同志社大学
9 全国同窓会	KOHLER, Chris M.	FF	京都精華大学
10 全国同窓会	MCKENZIE, Nalia B.	FF	琉球大学
11 全国同窓会	FELDMAN, Barrett	GRF	慶応大学

<Japanese>

1 YKK	土屋 聡	GSJ	Georgetown U.
-------	------	-----	---------------

ガリオア・フルブライト同窓会沿革

- 1982 ●日本のフルブライト・プログラムの30周年を機に全国9地区（北海道・東北・東京・中部・京都／滋賀・大阪・中国・九州・沖縄）に、ガリオア（1949～51）を含めた『ガリオア・フルブライト同窓会』を各地区ごとに結成。
●同窓生を対象に、主に米国人招聘の目的で第一回個人募金を展開し、4,400万円余りの寄付金が集まる。またその一環として『日米交流チャリティー・ゴルフ大会』も始まる。
●フルブライト上院議員を招き記念の昼食会
- 1983 ●経済団体・企業を対象とする募金開始
●同窓会募金をもとにした奨学金による留学生受入れ始まる。
- 1986 ●(財)日米教育交流振興財団（フルブライト記念財団）設立
- 1987 ●第二回個人募金により、4,600万円余りの寄付金が集まる。
- 1988 ●東京同窓会総会・懇親会（4/20）に、皇太子殿下（現天皇）・妃殿下（現皇后）がご臨席。
●北陸同窓会が結成される。
- 1990 ●フルブライト上院議員来日、『フルブライト夫妻歓迎会』を開催する。
●東京同窓会主催で、新着米国人フルブライターの歓迎レセプションに、高円宮殿下妃殿下がご臨席された。
- 1991 ●ニューヨークに『日米ガリオア・フルブライト同窓会』が結成される。
- 1992 ●日本のフルブライト・プログラムの40周年を記念し、日米教育委員会・ガリオア・フルブライト同窓会・フルブライト記念財団の共催により、アメリカ再発見旅行、全国大会（9/18、天皇皇后ご臨席）、フルブライト賞授与、記念品販売、フルブライト記念音楽祭（10/13、皇太子殿下ご臨席）、記念出版などの行事が行われた。
●第三回個人募金により、4,000万円余りの寄付金が集まる。
- 1995 ●フルブライト上院議員死去
- 1996 ●四国同窓会が結成される。
●世界のフルブライト・プログラムの50周年記念行事「アジア・シンポジウム」を日米教育委員会が開催し、シンポジウムとレセプションへ皇太子殿下妃殿下がご臨席された。
- 1997 ●第四回個人募金により、約3,000万円の寄付金が集まる。
- 1999 ●2002年のフルブライト・プログラム50周年に向けて『フルブライト公開講演シリーズ』を開始。
●ガリオア・プログラム50周年（1949～99）を祝い、「ガリオア50周年記念レセプション」を開く。
- 2001 ●第五回個人募金運動開始
- 2002 ●5/9(木) フルブライト・プログラム50周年記念音楽祭（於：サントリー・ホール）
●5/21～26(火～日) フルブライト・プログラム50周年芸術展（於：東京国際フォーラム Eギャラリー）
●5/25(土) フルブライト・プログラム50周年公開講演会（於：東京国際フォーラム ホールC）
●5/25(土) フルブライト・プログラム50周年公開レセプションに天皇陛下皇后陛下がご臨席
●5/26(日) フルブライト・プログラム50周年公開シンポジウムに皇太子殿下妃殿下がご臨席

事務局からのお知らせ

1. アメリカ、ドイツ、マケドニア同窓会のニューズレター
2001年度中にアメリカ、ドイツ、マケドニアのフルブライト同窓会から、それぞれ2001年ニューズレターが事務局宛てに送られてまいりました。ご希望の方はご連絡くだされば、コピーをお送りいたします。
2. 留学年度の同期会、専門分野を同じくする同窓生の会等を企画する方々に、事務局で案内状の発送、参加者リストの作成等のお手伝いをさせていただきますので、ご希望の方は、事務局宛にお申し付けください。
3. 2001年度中に、次の方々から物品の寄贈を頂きました。厚くお礼申し上げます。
栗山 春行様：コリンズ・クラブ50周年記念（51/52ガリオア）グラス・ウエイト1点、加藤 幸男様：絵画1点、筑井 和美様：デスク・クロック1点
4. 同窓会・財団のホーム・ページを改訂しました。http://www.fulbright.or.jp をぜひご覧いただきご意見をお寄せください。
5. 同窓会事務局
同窓会事務局は地下鉄有楽町線の麹町駅のごく近くで、地下鉄半蔵門線の半蔵門駅からも徒歩にて5分位、JR四谷駅及び市ヶ谷駅からそれぞれ徒歩にて10分位の所にあります。お気軽にお立ち寄り下さい。

編集担当より From the Editor

APRU（環太平洋大学連合）主催「技術移転と富の創造（Technology Transfer & Wealth Creation）会議」に参加した。APRU（環太平洋大学連合）は、アジア太平洋地域の有力研究大学が構成する大学連合で加盟大学の協力による地域の発展に寄与することを目的として様々な活動に取り組んでいる。

APRUは、初めての試みとして技術移転をテーマとする会議を南カリフォルニア大学（米国カリフォルニア州ロサンゼルス市）で開催した。ある意味ではこうした国際会議がスムーズに運営されるようになったこともフルブライト交流計画が過去50年の間に世界にもたらした大きな影響の一つであると言える。ガリオア・フルブライト東京同窓会会員の皆様にこれからもより良いニューズレターをご提供して参りたいと存じますので、今後ともご支援、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

この編集後記を綴っている間に、ガリオア・フルブライト同窓生である、東京大学名誉教授小柴昌俊氏のノーベル物理学賞受賞の朗報とともに、緒方貞子氏がアメリカ・フルブライト協会より、フルブライト賞を受賞される予定であるという、嬉しいニュースがアメリカ・フルブライト同窓会のホーム・ページに掲載された。誌面をお借りして小柴昌俊氏と緒方貞子氏に心からおめでとございますと申し上げさせていただきたい。

ガリオア・フルブライト東京同窓会
〒102-0084 東京都千代田区二番町11-10
TEL：03-3221-1841 FAX：03-3238-0758
E-mail：fulb@fulbright.or.jp
http://www.fulbright.or.jp



Publicity委員長
加藤幸男 KATO, Yukio
1990.At Large. International Education

Fulbright
ASSOCIATION

2002 J. William Fulbright Prize for International Understanding

SADAKO OGATA TO RECEIVE 2002 J. WILLIAM FULBRIGHT PRIZE FOR INTERNATIONAL UNDERSTANDING

Ogata Recognized as Giant in Field of Humanitarian Assistance;
Advances Policies and Programs Promoting "Human Security"

WASHINGTON, D.C. (Sept. 26, 2002) The Fulbright Association announced today that the 2002 J. William Fulbright Prize for International Understanding will be awarded to Sadako Ogata, special representative of the prime minister of Japan for Afghanistan assistance, co-chair of the Commission on Human Security, and Ford Foundation scholar-in-residence. Mrs. Ogata will be honored in a ceremony at the International Trade Center on October 11.

As United Nations High Commissioner for Refugees from 1991 to 2000, Mrs. Ogata protected and assisted millions of people forced by violence and deprivation to flee their homes. Since her appointment last year by Japanese Prime Minister Koizumi as special envoy on Afghan issues, Mrs. Ogata has raised \$4.5 billion in commitments from governments and international organizations for reconstruction in Afghanistan. In a report to the United Nations Security Council she said that while she had observed significant progress in Afghanistan this year, security and the rapid return of refugees still require the world community's urgent attention.

Former congressman Lee H. Hamilton, chairman of the international selection committee for the 2002 J. William Fulbright Prize, said, "Sadako Ogata is a giant of international humanitarian action and a truly remarkable woman. Her extraordinary work in a decade as United Nations High Commissioner for Refugees made the growing refugee problem an international priority and advanced the cause of disadvantaged and vulnerable peoples across the globe. For her lifetime of service to mankind and for her tireless efforts to promote greater international understanding, she is a very worthy recipient of the 2002 Fulbright Prize."

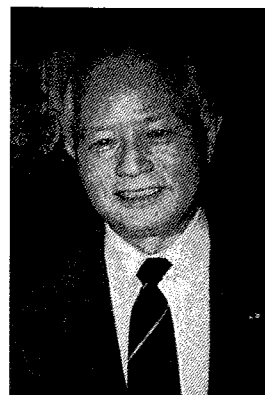
The J. William Fulbright Prize for International Understanding carries a \$50,000 award provided by The Coca-Cola Foundation. The Fulbright Association created the Fulbright Prize in 1993 with a grant from The Coca-Cola Foundation to recognize individuals who have made extraordinary contributions toward bringing peoples, cultures or nations to greater understanding of others. Previous recipients of the award are former South African President Nelson Mandela, former U.S. President Jimmy Carter, former Austrian Federal Chancellor Franz Vranitzky, former Philippine President Corazon C. Aquino, Czech Republic President Vtoslav Havel, former Chilean President Patricio Aylwin Azgoar, United Nations High Commissioner for Human Rights Mary Robinson, former president of Finland Martti Ahtisaari, and United Nations Secretary-General Kofi Annan.

The Commission on Human Security, which Mrs. Ogata helped organize and co-chairs with Professor Amartya Sen, Nobel Laureate in economics and Master of Trinity College, Cambridge, responds to United Nations Secretary-General Kofi Annan's call at the Millennium Summit to broaden the world's view of peace and security to include the "freedom from want" and the "freedom from fear."

—笑顔で結ぶ日米教育交流—



最高裁見学 濱田邦夫裁判官を囲んで



渡辺宏元同窓会長



行天豊雄元同窓会長

